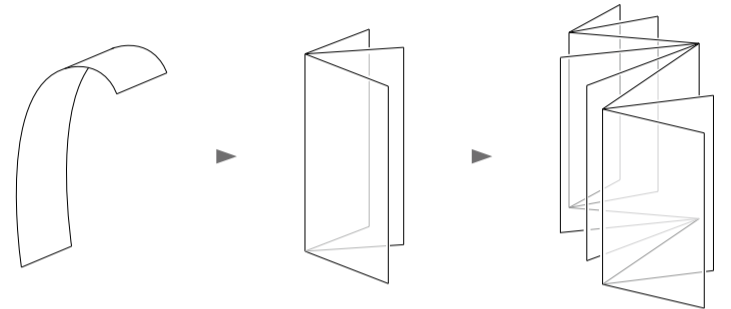


ゆるやかな構造

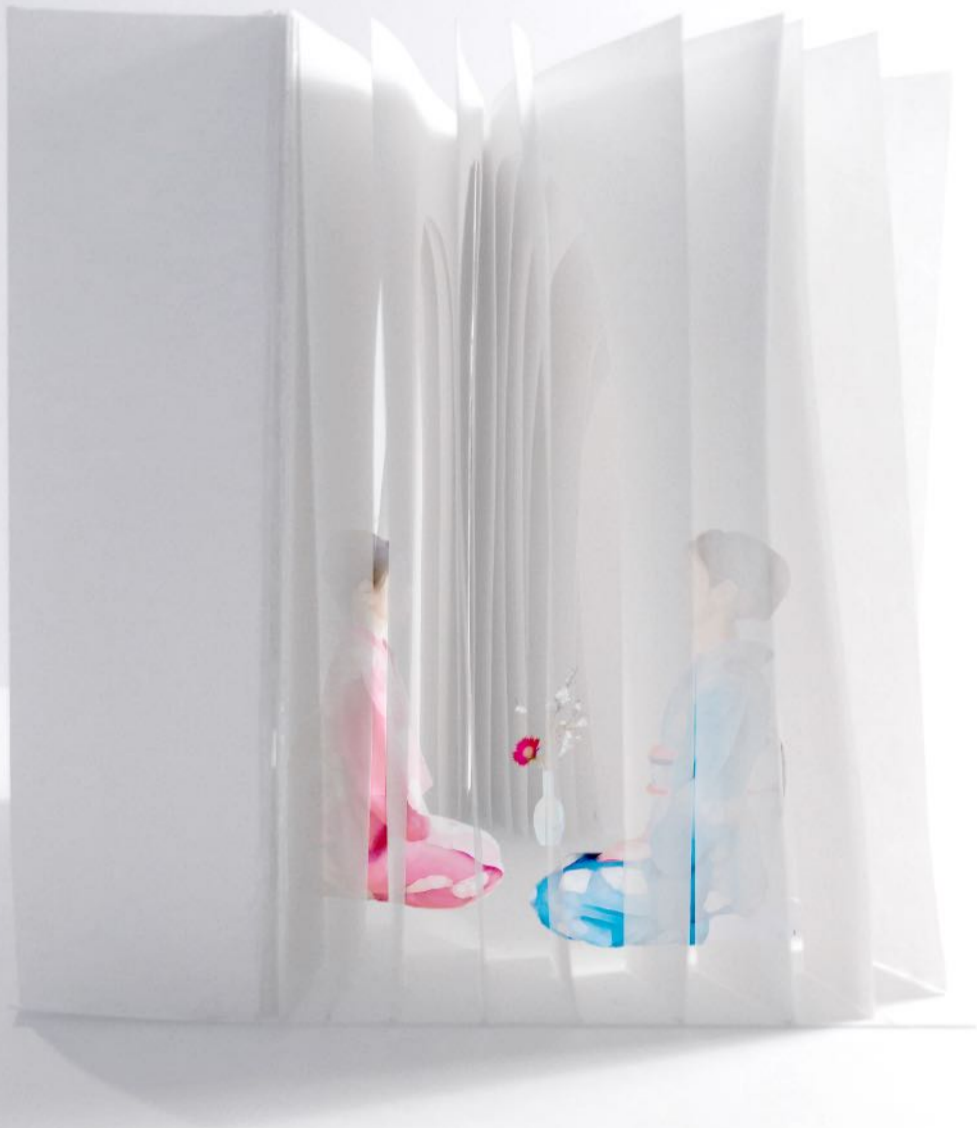
柱・壁・梁／最小限の構造で、無限大の空間を構成する茶室。

その構成をさらに分解することで、構造部材の境目がないやわらかい空間をつくる。

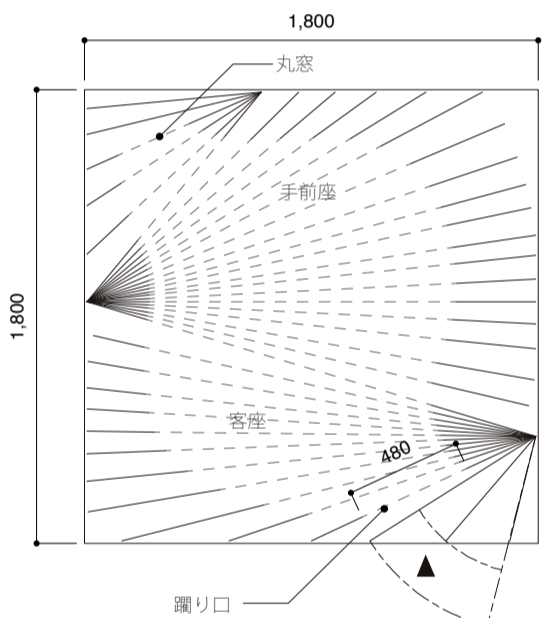
一枚では自立できないプラスチック段ボールを複数集めて一辺を束ねることで、束ねた部分が柱のように機能し、緩やかなたわみを許しながら全体が全体を支える一つの構造となる。



一枚では自立しない 一辺を束ねることで自立する 複数集めることで方向性のない構造ができる

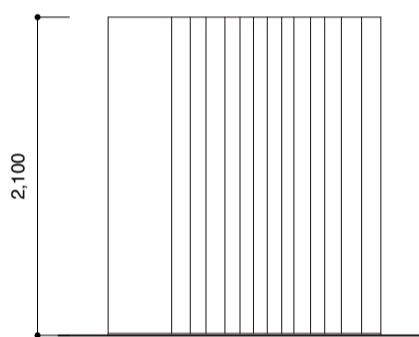


立面からみる

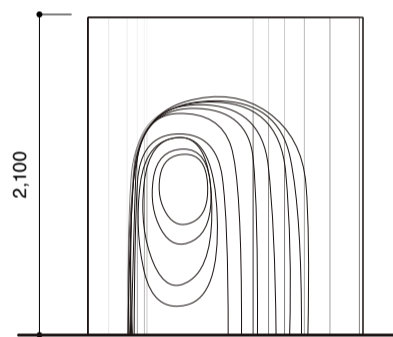


平面図 S=1/30

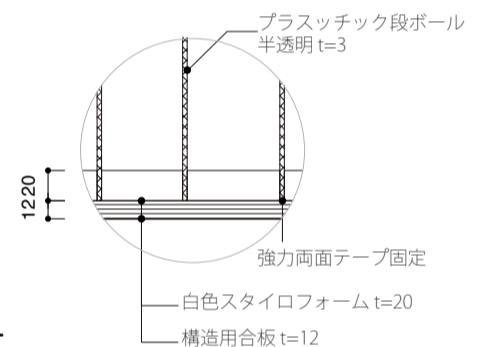
堅固な柱も梁も持たない構造は、自重や人の動きや風によるたわみやゆがみを許しながら成り立つ。構造をくり抜いてできた最小限の空間を、半透明のレイヤーから拡散した光が満たす。



立面図 S=1/50



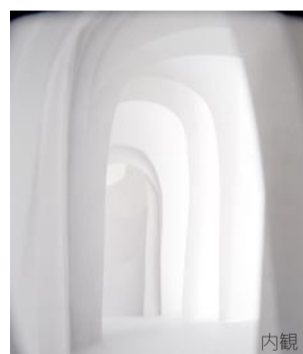
断面図 S=1/50



床詳細図 S=1/5



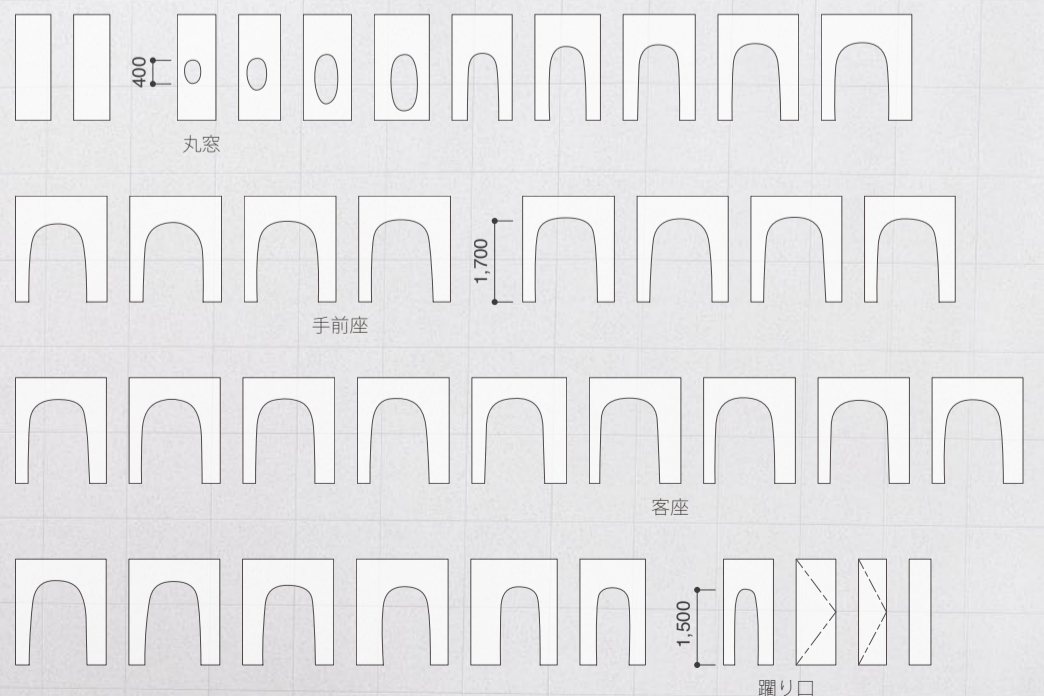
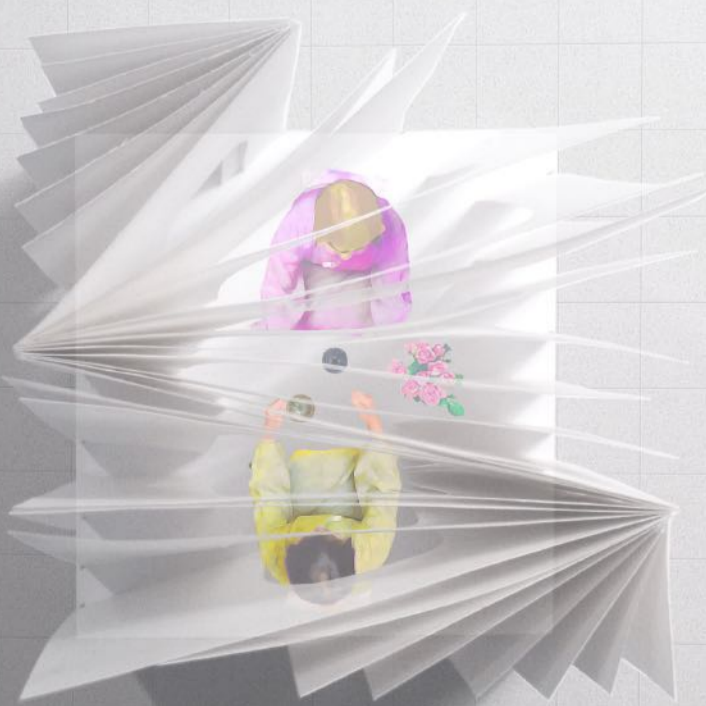
俯瞰



内観



内観



展開図 S=1/150

上部からみる